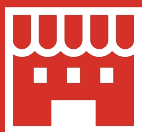


大阪大学生協
Lab.CO-OP



[店舗]

取り組み概要

日時：2020年10月より試験運用中
場所：吹田地区各研究室（順次拡大中）
組合員の反応：「自分たちで選んだ商品がすぐに使えて便利！」「実際に生協のお店まで行って、商品を選べるのが楽しい！」などの声が集まった。

背景や概要：研究室の中に、お菓子・食品・飲料等を提供できるコーナーを設置し、購買・食堂ではカバーしづらい時間帯や需要に対応することで、院生の食生活を補助する。

自らの手で自らの必要なお店を作る

POINT.1

組合員主体の利用



Lab.CO-OPとは、研究室に設置する24時間購入可能な購買スペースのことで、購買工学部店の食品の中から自分たちでラインナップを決めて運用します。週1回～月1回の頻度で、いつもの食堂や購買の帰りに受け取るだけで研究室内に食料品を揃えることができます。ボックスや冷蔵庫は無償でレンタルできるので初期費用はかかりません。このように、各研究室では、組合員が主体となり「運営」「利用」するシステムが構築されています。

POINT.2

院生と生協のつながり

研究室の教員にも訪問し、新たなつながりができていることもこの取り組みの教訓的なポイントです。院生組合員の多くは研究室を中心とした大学生活を送っています。研究室をベースとして大学生協がつながり、「自らの手で、自らの必要なお店を作る」という仕組みを作ることで、生協と院生組合員のつながりやコミュニケーションが生まれます。

より多くの研究室とつながりを生み出し、より多くの院生組合員や教職員組合員が、本取り組みや大学生協の運営に参加する仕組みを作ることを意識した運営の工夫がなされています。



POINT.3

共同運営のスキーム



手順としては、まず「Lab.CO-OP」商品リストを、研究室メンバーで話し合って作成・発注します。次に、研究室メンバーが店舗まで商品を取りに行き、各研究室の「Lab.CO-OP」に補充します。そして、各研究室に所属する組合員が商品を購入し、代金はLINEPayの二次元コード決済を利用して生協へ支払われます。

実際に店舗まで足を運んでもらい、商品の受け取りを行うことで、大学生協購買の利用や、大学生協の認知・運営への参加を行うことができるだけでなく、各研究室での購買行動履歴や需要の変化に合わせて商品リスト・発注数を随時見直し、ロスが生まれないように、自らの手で運営していく仕組みとなっています。

つながる元気、ときめきキャンパス。



ご質問や[K's NEWS]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！
ブロック学生事務局 [中村 憲太郎]
Nakamura.Kentarou@univ.coop